

Cheer Up JAPAN !

Osteopathic Volunteer Project

災害地における オステオパシー奉仕活動報告<第2期>



レポート：大迫由香



震災から10か月が過ぎ、世論の動向も興味も薄れつつあるこの頃ですが、皆様の周りでは、いかがでしょうか。

昨年4月より活動してきました第1期では、延べ89名の先生方のお力を借り合計13回で562人の被災者の方々にご利用いただきました。

第2期の活動は、昨年10月より再開し、今回も23名の先生方のご協力のもと、合計7日で125名の施術をさせていただくことができました。

夏を挟んで再開した第2期は、避難所から仮設住宅に移動して行われました。我々は引き続き、浪江町の方々のケアの依頼を受け、波江町の方が移住されている福島県本宮市恵向応急仮設住宅と福島県二本松市塩沢応急仮設住宅の2カ所を交互に訪問しました。

前回と比べて感じたことは、プライベートの空間を確保できたことで身体の緊張は少しですが減っているような気がしました。ただし、頻繁に起こる余震、放射能問題などと、精神的ストレスは抜けきることにはできないのでしょうか。不眠を訴える方が多かったように感じます。国や県から定期的に医師がカウンセリングや診察に来てくれると伺いましたが、慢性の不眠ということで、睡眠薬を処方されているお年寄りが目立ちました。

また、第1期と比べて違うなと感じたことは、施術中にクライアントの皆様がよくお話をなさるなあ、ということです。以前は、じっと黙って目をつぶって身を固くしている印象がありましたが、今回は、大体の皆様が世間話や自分の体調について、自らよくお話をしてくれたように感じました。それは、たびたび訪問して私たちに信頼関係を感じて下さったことが大きいのでしょうか。しかし一方で、お一人で住んでいる方などは、自分の感情をぶつける相手が、もしかしたら、いらっしゃらないのかなあとも感じました。同じ浪江町の方とはいえ、知り合いは少ないとおっしゃる方もいました。その方は、被災当初は

娘さん夫婦の住む千葉に避難していたけれども、仮設住宅ができたこと聞き、一人で戻って来たとおっしゃっていました。様々なリスクや寂しさをふまえてでも「住み慣れた福島を離れたくなかったから」という郷土愛あふれる言葉に、胸が熱くなってしまったのを思い出します。

今回の活動は、福島県郡山市在住の七海仁一先生が陣頭指揮を執ってくださり、円滑にすすめることができました。七海先生は、日々の



の勉強会を開催されたり、御尊父様の御逝去の出来事の中で、期間中ほぼ毎週ご参加いただきました。そして、こちらもほぼ毎週受付や広報のお手伝いを頂きましたご次男友紀君をはじめ、ご長男元紀君、奥様も、お忙しい中をぬって駆けつけて下さり、七海家一家総出で多大なるご協力をいただきました。この場をかり、改めて御礼と感謝の意を表したいと思います。

約6ヶ月間にわたって行われましたこのボランティアプロジェクトは、今回で終了することにいたしました。もちろん、被災地ではまだ



東日本地震におけるボランティア施術活動報告

まだ苦難の日々が続いております。今後も機会と時期を鑑みながら、様々なかたちで支援していきたいと考えております。

これまで活動にご協力頂きました方々へ、改めて御礼申し上げます。また、予想を上回る支援金につきましても改めて感謝の意を表させていただきます。収支報告等は次回お知らせ致しますのでご了解下さいませ。

オステオパシーが架け橋になり、様々な絆と喜びを感じた今回の活動。あらためて、オステオパシーの素晴らしさを実感致しました。今後も、オステオパシーが日本の活性化に繋がるよう、皆様のご協力をよろしくおねがい致します！



～今回の活動を終えて～

七海仁一先生より、ボランティア活動を終えて総括の感想を頂きましたのでご紹介します。

JOA理事として、JOF主催の施術ボランティアの責任者として、そして被災地の住民として延べ6か月間の活動に参加させて頂きました。

思い起こせば、17年前の阪神淡路大震災の時に、平塚晃一先生、大場健治先生が神戸にボランティア施術に通い、活躍していました。私は、出産後、病に倒れた家内と、乳飲み子を抱え、やっとの思いでその日その日を送っていました。出来る事なら、神戸に行きたかった。そんな思いが、くすぶっていたのかもしれませんが、今回の震災には率先して参加せざるにはいきませんでした。

6か月間、20回に及ぶ、施術ボランティアが一段落して、ある意味ほっとしている自分が居ます。縁があって、浪江町の方々に接する事になりましたが、本当に暖かな人たちで被害者意識は無かったように思います。我々の方が、逆に意識しすぎたような面もあるし、気を使いすぎたような事もありました。人間は、そんなに弱くない。たくましさを学んだ時間でもありました。そんな事もあり、逆にエネルギーをもらっていたのかもしれません。

今回、協力して頂いた先生方には、本当に感謝申し上げます。日本列島は本当に脆弱な状態だと思えます。いつ、東京直下、東海、南東海の地震が来ても、おかしくありません。次の震災に備えた対応も考えておかななくてはいけないと思えます。今回、経験した事を基礎にこれからの事を考えなければなりません。皆様の積極的な対応を期待しております。自分からアクションを起こさなければ、感動も無い事を今回学びました。

JOA副会長 七海仁一

■参加された先生方■

【第1期】



第11回（7月10日）



第12回（7月17日）



第13回（7月24日）

【第2期】



第1回（10月2日）



第2回（10月9日）



第3回（10月16日）



第4回（11月6日）



第5回（11月13日）



第6回（11月20日）



第7回（11月27日）

全7回
参加人数23名 内、JOA15名)

ご協力いただき本当にありがとうございました！

ボランティアにご参加頂きましたその他 JOF 会員の感想は、 JOF のホームページに掲載されております。
よろしければ、こちらをあわせてご確認ください。